

平成29年 **1 2**月の大阪森林便り



今月の木の話

針葉樹の材質にとって一番大切なことは山の高さ

- ・日本においては海拔 600Mくらいの山の高さが最も適していて、800Mくらいの高さまでが良質の木材を育てる条件です。
- ・なぜ 600Mの山が良いかというと、霧がかかる、靄がかかる、それが木の成長にとって非常に良い条件だということです。
- ・アメリカでも同様に、アメリカ西海岸のロッキー山脈中のカスケードの木材が良いYというのも同じ理由からです。
- ・日本における杉の南限である屋久島では、800Mから 1300Mという高さが吉野の 600Mから 800Mと同じ条件となって屋久杉が育ち、日本からかなり南になる台湾の台桧は、1000Mクラスの山に育っています。
- ・海拔 2000M~2800Mのところには日本の松とそっくりなカンボジアの松が成長しています。
- ・良い木の育つ条件は世界共通で、一定の気温帯が木の成長には必要だということです。

木にとって、春夏秋冬という季節の切れ目がなくて夏ばかりだと、南洋材のように木目の粗い木が育ってしまいます。

(日本林業調査会「木材に強くなる本」より抜粋)



森林環境税 1人 1000円 2020年度以降、年 620億円に

- ・政府与党は 2018 年度税制改正で、森林保全に使う「森林環境税」を創設し、1人当たり年 1000円を徴収する方針。
- ・対象は住民税を支払う 6200万人で年 620億円の財源となります。
- ・私有林の面積や林業従事者数などに応じ譲与税として自治体に配分する仕組み。
- ・自治体は間伐や林道の整備、林業従事者の育成に活用します。

(2017年 11月 23日 日本経済新聞記事から抜粋引用)

輸入木材価格が上昇 米産 20 年ぶり水準

国産材へ切り替え機運 東南アジア産合板も最高値圏

・輸入木材の流通価格が上昇。輸入する木材の不足感が強まり、米国産丸太の商社販売価格は 20 年ぶりの高値水準。東南アジア産合板の卸価格も過去 30 年で最高値圏。

・米松丸太の 11 月積み価格は、10 月積みに比べ 5% 上昇。7 月のカナダの山火事の影響が深刻で同国産原木が不足。米国内では堅調な住宅需要が続いています。

・マレーシアやインドネシアから輸入する合板の価格も急上昇。過去 30 年で最高値。

・合板の日本国内在庫は低水準が続いています。

建築コスト押し上げ 戸建て見積もり価格に影響も

・住宅の建築コストも上昇基調。

・国産材に追い風。2016 年の木材自給率は約 35% と、30 年ぶりの高水準。合板の 2016 年の国内生産量も輸入量を 21 年ぶりに上回りました。

(2017 年 11 月 10 日 日本経済新聞記事から抜粋引用)

日本一高い樹木 京都の「三本杉」 62.3M 林野庁確認

・林野庁は、京都市左京区の大悲山国有林にある「花脊の三本杉」のうち 1 本が、樹木としては日本一の高さとなる 62.3M であることを確認。

・これまで最も高いとされていたのは、愛知県新城市にある鳳来寺の傘杉 (59.6 M)。

・三本杉は樹齢約千年。従来、高さ 35M 程度と考えられていましたが、ドローンで簡易的に測定したところ、傘杉に匹敵する高さで判明。専門機関に依頼して詳しく調べ直しました。

(2017 年 11 月 29 日 日本経済新聞記事から抜粋引用)

